

河川工作物WG

1、河川工作物WGの目的

河川工作物WGは、「河川工作物の改良を検討するに当たり必要となる河川工作物のサケ科魚類に対する影響評価及びその結果に基づく助言を得ること」を目的に設置するものである。

2、河川工作物WGの検討事項

①河川工作物のサケ科魚類に対する影響評価手法の確立、②同手法に基づく影響評価及び③改良の工法についての検討をする。

(1) 影響評価対象河川工作物

遺産区域内の全河川工作物（国有地、民有地）及び遺産区域下流の遺産区域外の河川工作物（民有地）について影響評価を行なう。

(2) 17年度の検討事項

17年度は、5回のWGを開催し、岩尾別川（国有地）、ルシャ川（民有地）、オッカバケ川（国有地、民有地）及びモセカルベツ川（国有地、民有地）の河川工作物の影響評価を行う。

影響評価の結果、改良が必要と認められる河川工作物の改良の工法は18年度WGで検討する。

3、影響評価の対象となる河川工作物の定義

河川工作物の定義は以下のとおりである。

床固工

治山ダム設置時において治山ダムから上流の縦断線に変化がないもの。

谷止工

治山ダム設置時において上流側に貯砂機能があり、ダム上流側の縦断の変化があるもの。

落差工

流水による河床の洗掘・侵食を防止し、河道の形状や河床勾配を安定させることを目的とする。「床止め」、「床固め」ともいう。

砂防えん堤工

土石流などによって流れてくる土砂を捕捉して、土砂災害を防止・軽減することを主な目的とする。

なお、帯工（床固工の一種で越流部に水流の落差がないもの）、山腹工、護岸工、流路工、地すべり防止施設（集水井等）は除外している。

4、サケ科魚類の遡上状況

平成 15、16 年度に北海道が実施した「知床サケ科魚類遡上状況等調査報告書」により、遡上状況についての概況を報告する。

5、今年度のスケジュール

第1回 河川工作物WG

平成17年7月15日（札幌）

検討事項

- 1、知床世界遺産区域内の河川工作物の設置状況
- 2、サケ科魚類の遡上状況
- 3、今後のWGの進め方について

第2回 河川工作物WG

平成17年8月下旬（札幌）

検討事項

- 1、影響評価手法の検討
- 2、影響評価調査項目の検討

第3回 河川工作物WG

平成17年9月下旬（知床）

検討事項

現地検討会

第4回 河川工作物WG

平成17年12月中旬（札幌）

検討事項

- 1、影響評価手法の決定
- 2、調査結果の報告

第5回 河川工作物WG

平成18年2月中旬（札幌又は知床）

検討事項

- 1、個別影響評価調査結果の検討
- 2、取りまとめ

17年度影響評価対象河川とサケ・マス遡上量調査

	河川名	河川 工作物	H15予備調査		H16予備調査	H17本調査
			環境省	道	道	道
羅臼側	羅臼川	国、道				
	チトライ川	国				
	ハシコイ川					
	サシルイ川	道		○	○	○
	オッカバケ川	国、道		○	○	○
	モセカルベツ川	国、道		○	○	○
	知円別川	道		○	○	○
	ケンネベツ川	道		○	○	○
	ショウジ川	道		○	○	○
	キキリベツ川			○	○	○
	ルサ川			○	○	○
	オシヨロッコ川	国		○		
	相泊川	国		○		
	カモイウンベ川			○	○	○
	クズレハマ川			○	○	○
	ウナキベツ川			○		
	モレイウシ川			○	○	○
	ペキン川					
	滝の川					
	メオトタキ川					
	メオトタツ川					
	赤岩川					
	斜里側	ポロモイ川				
アウンルイ川						
オキッチウシ川			○		○	○
マムシの川						
ポトピラベツ川			○			
知床川						
タコイワ川						
タキノ川						
チャカババイ川			○		○	○
テツパンベツ川			○		○	○
ルシャ川		道	○		○	○
ボンベツ川			○		○	○
ボンブタ川		国	○			
ウツシノツタ川						
ウソシオクベ川						
ウンメーン川						
硫黄川						
カムイワッカ川						
イロイロ川			○		○	○
イダッシュベツ川			○			
岩尾別川		国	○		○	○
ホロベツ川			○		○	○
44		13	11	14	19	19
は17年度影響評価対象河川。○は遡上調査箇所。						

各河川の特徴

ルシヤ川

昭和 47, 48 年の集中豪雨により、土砂や流木が押し流され、サケ・マスふ化場の倒壊や定置網魚場の損壊等、甚大な被害が発生したことから、斜里町や漁業関係者からの強い要請を受け治山ダム 3 基を設置した。

当河川では、サケ・マスのふ化事業が行なわれていたことから、ダムの設計に当っては魚類の遡上に配慮した複断面型の低ダム群とした。

下流部には、サケ・マスふ化場や林道等の保全対象があり、河口部には漁場がある。

ポンブタ川

硫黄山を源頭部とし、河川内には大きな転石が多く、咬み合うような形でバランスが保たれている状況にある。

下流部には、知床林道等の保全対象があり、河口部には魚場がある。

岩尾別川

大規模な崩壊地があり昭和 54, 56 年の台風では激甚な被害を受けた。

過去には台風災害により道路が決壊し宿泊客が孤立したことも幾度かあり、斜里町からの陳情も受けている。また現在もこの流域内には不安定土砂が堆積している。

下流部には、サケ・マスふ化場や道々、民家、温泉等の保全対象がある。

アイドマリ川

水量豊富な奔流をなし、溪床には巨岩が散在し、両岸は堆積土砂脚部の浸食が行われている。また上流には地すべりによって、川が堰き止められて形成されたと推定される相泊沼があるなど流域全域が地すべり地形である。

下流部には、民家や番屋等の保全対象があり、河口部には魚場がある。

オシヨロッコ川

当河川の急崖地は、山地災害危険地区に指定されている。

オシヨロッコ川右支流は表土が浅く、林床は湿生の草木が多く、立木の屈曲・

倒木などが認められ、地すべり性荒廃地の様相を呈している。

下流部には、番屋や民家等の保全対象があり、河口部には魚場がある。

モセカルベツ川

全域が土砂流出防備保安林である。

全域火山噴出物で被われ、山腹の上部は比較的緩斜地の地形をなしているが、溪流は深く谷を刻んでいる。

上流には、荒廃地、中流に山腹崩壊地等もあり溪床には大転石、不安定土砂が多い。

下流部には、サケ・マスふ化場や番屋、道々、集落等の保全対象がある。

オッカバケ川

全域が土砂流出防備保安林である。

流域の中・上流部は急峻で、源流部には荒廃地が多数あり、一部大きな地すべり地形をなしている。

下流部には、道々や港湾施設等の保全対象があり、河口部には魚場がある。

チトライ川

全域が火山噴出物に被われた緩傾斜の丘陵台地形をしている。

中、上流部では堆積土砂の横浸食が進行し、中、下流部の堆積土砂は不安定化している。

下流部には、道々や集落等の保全対象があり、河口部には魚場がある。

羅臼川

羅臼岳を源頭部とし、稜線付近に火山性特殊崩壊地があり、特に中流部は風化が進んだ大規模な崩壊地が連続している。

これらから、崩落した岩石が急勾配の溪床に累積しており、豪雨時に土砂礫が流下している。

下流部には、川沿いに細長く民地が介在し、羅臼町の中心部市街地、国道、温泉街、サケ・マスふ化場等多くの保全対象がある。